



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月13日

上場会社名 I N E S T株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3390 URL http://inest-inc.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)伊奈 聡  
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部長 (氏名)片野 良太 (TEL)03(6892)3864  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	2,164	△12.2	148	—	146	—	204	—
28年3月期第3四半期	2,466	△22.8	△11	—	△43	—	△422	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 199百万円(—%) 28年3月期第3四半期 △422百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	4.20	—
28年3月期第3四半期	△8.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	1,305	797	59.7	16.06
28年3月期	1,724	590	33.4	11.85

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 780百万円 28年3月期 575百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—		
29年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

29年3月期の配当につきましては、未定であります。配当については、決定次第速やかにお知らせいたします。

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,800	△0.8	△350	—	△355	—	△370	—	△7.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規2社 (社名)株式会社E P A R Kライフスタイル、株式会社E P A R Kテイクアウト

除外2社 (社名)メディカモバイル株式会社、アスカティースリー株式会社

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

29年3月期3Q	48,591,907株	28年3月期	48,591,907株
29年3月期3Q	66株	28年3月期	66株
29年3月期3Q	48,591,841株	28年3月期3Q	48,591,841株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

#### <1> 業績の状況

当第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年12月31日)における我が国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景とし、企業収益、雇用の改善がみられました。一方、為替の変動や英国の欧州連合離脱、米国の政治政策の動向等、海外経済の不確実性の高まりなどから、先行きについては不透明な状況が続いております。消費の基盤となる個人所得の水準については、小幅な改善に留まっており、個人消費者の節約志向により景況感は足踏み状態となっております。

当社グループを取り巻く事業環境では、引き続きスマートフォン・タブレット端末の普及拡大が進んでおりますが、大手通信会社のスマートフォンの買い替えサイクルが長期化したことなどによる新規販売の減少により、その伸長率は鈍化傾向となっております。また、情報通信事業者による新サービスの提供開始や、仮想移動体通信事業者(MVNO)の参入などの影響により、主要携帯通信キャリアが主導してきたビジネスモデルは、今後大きく変化していくことが予想されます。

このような事業環境のもと、当社グループは、将来に向けたさらなる収益力向上を目指し、システム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客ニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,164百万円(前年同期比12.2%減)となり、営業利益148百万円(前年同期は営業損失11百万円)、経常利益146百万円(前年同期は経常損失43百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益204百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失422百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① システム事業

システム事業セグメントは、店舗運営を行う法人事業者を対象に、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売、予約サービスの展開など、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続きシステム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客満足度を向上させるべく、総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。

また、外食産業向けセルフオーダーシステムの販売・運営事業を行っていたアスカティースリー株式会社が連結子会社ではなくなりましたが、その一方で事業者に対して予約システムなどのソリューションサービスの提供を行う体制を構築し、積極的に提案活動の展開を行い、収益力の向上を図ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は351百万円(前年同期比57.1%減)、セグメント利益は11百万円(前年同期はセグメント損失18百万円)となりました。

#### ② 直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、従来より取り組んできた、事業規模に見合った人員配置、従業員一人当たりの生産性の向上、諸経費の削減等が奏功し、業績が順調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,823百万円(前年同期比10.6%増)、セグメント利益は206百万円(前年同期比130.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(総資産、負債及び純資産の状況)

	前連結会計年度末	当第3四半期連結会計期間末	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	1,724	1,305	△418
負債	1,133	508	△625
純資産	590	797	206

総資産は、主に売掛金の減少により、前連結会計年度末に比べて418百万円減少し1,305百万円となりました。

負債は、主に買掛金、未払金、借入金の減少により、前連結会計年度末に比べて625百万円減少し508百万円となりました。

純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益204百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて206百万円増加し797百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する定性的情報

平成29年度3月期の業績予想については、平成28年5月19日付と平成29年2月13日付「新たな事業の開始に関するお知らせ」の通り、当期は予約システムなどのソリューションサービスの提供開始に向けたシステム開発や、顧客獲得にかかる費用など一時的な費用を大きく見込んでおります。

今後、業績予想の修正が必要となる場合は速やかにお知らせいたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、清算終了したことにより、メディカモバイル株式会社を連結の範囲から除外しております。

第2四半期連結会計期間において、株式の一部を譲渡したことにより、アスカティースリー株式会社を連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。また、株式会社E P A R Kライフスタイル及び株式会社E P A R Kテイクアウトを新規設立し、連結の範囲に含めております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については、従来、定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

これは、当連結会計年度において、今後の収益構造及び有形固定資産の使用状況を再検討した結果、使用可能期間にわたる均等償却により費用配分を行うことが、当社グループの経済的実態をより適切に反映できると判断したためであります。

この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	755	865
売掛金	668	276
商品	72	2
その他	101	23
貸倒引当金	△5	△1
流動資産合計	1,591	1,166
固定資産		
有形固定資産	20	24
無形固定資産		
のれん	16	9
ソフトウェア	33	26
その他	1	1
無形固定資産合計	51	37
投資その他の資産		
投資有価証券	11	24
その他	70	62
貸倒引当金	△21	△9
投資その他の資産合計	61	77
固定資産合計	132	139
資産合計	1,724	1,305

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	320	125
短期借入金	50	—
1年内返済予定の長期借入金	91	24
未払金	350	252
未払法人税等	23	0
賞与引当金	37	9
役員賞与引当金	6	1
その他	79	93
流動負債合計	959	507
固定負債		
長期借入金	161	0
その他	13	—
固定負債合計	174	0
負債合計	1,133	508
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	757	757
利益剰余金	△281	△77
自己株式	△0	△0
株主資本合計	575	780
新株予約権	12	—
非支配株主持分	2	17
純資産合計	590	797
負債純資産合計	1,724	1,305

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日至 平成28年12月31日)
売上高	2,466	2,164
売上原価	1,521	1,293
売上総利益	945	870
販売費及び一般管理費	956	722
営業利益又は営業損失(△)	△11	148
営業外収益		
その他	0	1
営業外収益合計	0	1
営業外費用		
支払利息	9	1
持分法による投資損失	20	—
その他	2	0
営業外費用合計	32	2
経常利益又は経常損失(△)	△43	146
特別利益		
子会社株式売却益	—	62
特別利益合計	—	62
特別損失		
のれん償却額	271	—
減損損失	75	—
その他	23	—
特別損失合計	370	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△414	208
法人税、住民税及び事業税	8	9
法人税等合計	8	9
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△422	199
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支 配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半期純損失(△)	△422	204

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△422	199
四半期包括利益	△422	199
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△422	204
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	819	1,647	2,466	—	2,466
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	0	0	△0	—
計	819	1,648	2,467	△0	2,466
セグメント利益又は損失(△)	△18	89	△71	△82	△11

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△82百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△82百万円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

システム事業セグメントにおいて、連結子会社の固定資産の減損損失を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は75百万円です。

(のれんの金額の重要な変動)

システム事業セグメントにおいて、子会社への投資に係るのれんを償却(特別損失)したことにより、のれんが271百万円減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	351	1,813	2,164	—	2,164
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	10	10	△10	—
計	351	1,823	2,174	△10	2,164
セグメント利益	11	206	217	△69	148

(注) 1 セグメント利益の調整額△69百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△69百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間にアスカティースリー株式会社の株式の一部を譲渡したことにより同社が連結子会社でなくなったため、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、システム事業において、320百万円減少しております。